



耳の聞こえが悪くなると、友人と会う機会など外出の機会が減り、社会的孤立や認知症の原因にも。しかも補聴器は高額で、調整に時間がかかります。支援実施は急務です。



高齢者補聴器購入費助成が品川区でも、ついに実現へ

長年の署名運動と議会論戦が区政を動かしました

区が「検討」を表明

6月末より開催された区議会第2回定例会において、品川区は高齢者の補聴器購入助成について「実施に向けて取り組んでまいります」と表明はじめての答弁です。

共産党は高齢者の「耳の聞こえ支援」を進めるため、高額な補聴器への購入費補助や早期発見、早期装着への支援を提案。

当初、品川区は「難聴は家族が気づくので検査は必要ない」「購入費補助の考えはない」とくりかえし説明。これに対し共産党は「早期発見のため

の検査は重要」「耳の聞こえが悪くなると、社会との交流が減り孤独になる方も多い。専門家は認知症への影響も指摘している」など論戦し、粘り強く提案してきました。

23区でも16区へと購入助成が広がる中、今回ついに品川区が購入費助成を表明した事は画期的な前進です。

区政を動かした力

実施を拒んでいた品川区を変えさせた力は、区民の声、共産党の論戦、署名運動です。住民の強い願いと粘り強い運動が大きな力となりました。

実施時期、助成内容等は今後の検討

補聴器購入費助成について、共産党は6月末の厚生委員会にて実施時期や助成額、聴覚検査の実施、調整などのサポートなどを質問。品川区はいずれも「今後検討していく」との説明でした。

助成額について、先行自治体では港区のように約13万円（非課税世帯）の自治体や、2〜3万円の自治体もあります。

いつから、どのような支援を始めるのか、引き続き高齢者の聞こえの支援について早期実施を求めていきたいと思えます。

自公は最後まで反対

これまで品川区議会には8回もの補聴器購入費補助を求める署名が提出されました。共産党は「早期実施が必要」と全

てに賛成。しかし自公らは全てに反対しました。

厚生委員会の議事録を確認すると、2021年9月は自民区議より「補助制度を創設するという結論には至っていない」。2022年2月は自民区議より「補聴器の必要性は十分理解している」、公明区議より「様々な政策を検討して欲しい」と述べながら、署名にはなぜか反対しました。

そして今回の厚生委員会で自民区議より「区より助成実施との答弁がある。主張の繰り返しや批判では一歩も進まない」と述べ、反対しました。

区民の願いに背を向けるこうした姿勢は厳しくただされるべきです。

引き続き、聞こえの支援の早期実現へ力を尽くします。なかつか亮

品川区初のコミュニティバス「しなバス」が好評です 引き続き、西大井循環ルートの実現へ取り組みます

今年3月より運用が始まった「しなバス」ですが、ルート近隣の方々をはじめ、多くの方に好評です。4月は約1万5000人が利用し、約半数がシルバーパスを利用。高齢者にとっても便利な交通手段として喜ばれています。8月からは現在の1時間2本が1時間3本にバスの運行が増える予定です。

また、検討中となっている西大井循環ルートについても、区は「引き続き、警察との協議を進めていく」と説明しています。西大井4丁目や5丁目等を通過する西大井循環ルートの実現へ、頑張ります。



しなバスの車体は全部で3色あります。子どもからも「かわいい」との声が寄せられています。

なかつか亮 1975年西大井生まれ／46歳／伊藤小、富士見台中、農大一高卒／イタリア料理厨房6年／27歳初当選／区議5期／予算・決算委員会副委員長を経験、現区民委員会委員長／党区議団前幹事長／家族：妻／29号線取消裁判原告／趣味：旅行 

なかつか亮の駅前宣伝 火曜日朝7時半～大井町駅、金曜日朝7時半～西大井駅、土曜日夕方4時～大井町駅
スタッフ募集：区政報告を駅前宣伝で配布して頂ける方を探しています。少しの時間だけでも助かります。